

発達障害の子どもを持つ両親のための  
ペアレントトレーニングワークブックの作成

報 告 集

2007 年度事業



特定非営利活動法人 アスペ・エルデの会

## はじめに

この度、日本財団より助成金をいただく機会を得て、発達障害の子どもを持つ両親のためのペアレントトレーニングのワークブック作成を行うことができました。

すでにペアレントトレーニングは、講座として取り組んでいましたが、統一したもので、より整理しやすいもの、子育てや支援につながりやすいものが必要と感じており、今回の助成事業によりワークブックを作成することができ心より感謝しております。

今回のワークブックでペアレントトレーニングを取り上げたのは、子どもの特性を把握し、課題を整理してその子に適した支援をしていくためです。

障害があるかどうかということだけではなく、子どもの発達の遅れや道筋に対して、早期から介入し、その子どもにあった支援を始めることが必要です。子どもの一人ひとりの個性に対して適した両親の関わりも重要です。特に、発達障害でない場合も、早期からの支援はその後の成長にも大きく働きます。子育てで悩んだり、迷ったりしているときは、まず何かに組んでみた方がよいと思います。「様子を見る(何もしない)」ことにも「リスクがある」ということです。子どもの個性に合わない子育ての場合は虐待のハイリスクとなります。

また、過剰な期待をしたり失望したりしてしまうことのないように、子どもに必要な支援をしていくためには、正しい知識が必要です。

そこで、子どもの現状把握の仕方や、課題の捉え方や整理の仕方、支援へのつなげ方について、ワークブックを使用して取り組み、子どもの現状にあった支援をしていくこと、子どものよさやがんばりをたくさん見つけたり、子どもの成長を実感できるようにしたりすることに取り組んできました。

この事業では、作成したワークブックを用いて名古屋、東京、大阪でワークショップを開催しました。親御さんへの支援だけでなく、現場で実際の支援につなげていくために支援者(教員、医師、保育士など)も募集して行いました。

ワークブックによって、子どもの現状把握の大切さや課題の整理の仕方などの理解につながったと思います。

子どもたちの個性にあったやり方で、子どもへの関わり方としていかに「わかりやすく伝えるか」などの具体的な工夫の仕方を、今後このワークブックを有効に活用していただければ幸甚に思います。

## ペアレントトレーニングワークブックの作成について

はじめはワークブックの作成は1種類の予定でした。

しかし、ペアレントトレーニングは、

- 1、現状把握（子どもの様子を行動で捉えることなど）ができる。
- 2、「いいところ」「努力しているところ」について正しく理解できる。
- 3、現状把握の仕方がわかり、実際に子どもともやりとりを活字にして振り返りができるようになる。
- 4、子育ての工夫の仕方がわかる。

という流れになります。

ワークブックを活用していくには、1冊ですべてを組み込むよりは、段階ごとに丁寧に取り組むことができるものがよいと判断し、「初級1」、「初級2」、「中級編」という3種類を作成することにしました。

作成したワークブックについては、次に示します。



## 保護者・支援専門家対象

### 日本財団助成事業「発達障害の子どもを持つ両親のためのペアレントトレーニングワークブックの作成」 発達障害の子どもを持つ両親のためのペアレントトレーニングワークショップ

<< 各会場とも定員に達しましたので受付終了しました >>

上記タイトルにもありますように、「発達障害の子どもを持つ両親のためのペアレントトレーニングワークショップ」を名古屋、東京、大阪の3会場で行います。

日本財団助成事業で作成したペアレントトレーニングのワークブックをもとに、障害理解、問題把握、子育て方法に関するワークショップです。

参加は親御さんだけでなく、地域の支援専門家（教師、保育士、福祉関係者など）の方も募ります。

参加定員には限りがありますので、お早めにお申込みをお願いいたします。

また、参加申込み者で、親御さんと支援専門家の方の人数の調整もさせていただきますので、御了承ください。

## 実施要項

日 程:

名古屋会場 11月 4日(日) 名古屋都市センター(金山駅隣)

東京会場 12月16日(日) 日本財団

大阪会場 12月26日(水) IMPビル(大阪ビジネスパーク内 JR環状線京橋駅徒歩5分)

時 間: 10:00～17:00

(1) 10:00～12:00 初級編

(2) 13:00～15:00 初級編2

(3) 15:00～17:00 中級編

参加費: 2000円 (当日、お釣りのないよう封筒に入れてご持参ください)

## 対象

発達障害の子どもを持つ親御さん 6名

発達障害の子どもたちの支援専門家(教師、保育士、福祉関係者)10名

## お問い合わせ (お申し込み受付は終了いたしました)

お問合せ先: E-mail ( を@に直してお送りください) Script by [JS File](#)

## 発達障害の子どもを持つ両親のためのペアレントトレーニングワークショップ

### タイムスケジュール

初級編 10:00～

自分について、子どもについて行動で見ることができる。

初級編2 13:00～

「いいところ」とはどんなところかについて理解ができる。

中級編 15:00～

現状把握の仕方がわかり、問題解決への考え方を学ぶ。

## 名古屋会場

日時 11月4日

場所 名古屋都市センター会議室

参加者 保護者 8名

専門家（支援者）4名 特別支援学校教員、精神科医、発達障害者支援センター  
計12名



## 東京会場

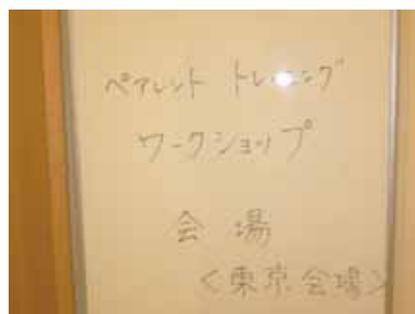
日時 12月16日

場所 日本財団ビル会議室

参加者 保護者4名

専門家（支援者）9名 発達障害者支援センター、相談員、保健師、心理士、  
言語聴覚士、カウンセラー

計13名



## 大阪会場

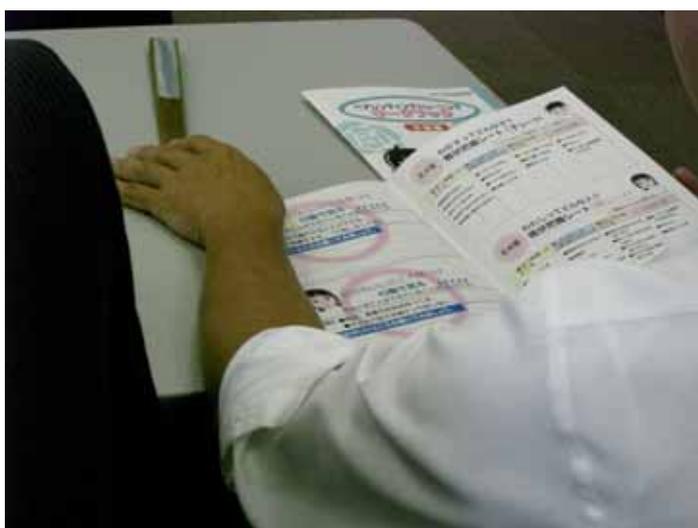
日時 12月26日

場所 IMP 会議室

参加者 保護者 6名

専門家（支援者）10名 保育士、保育園長、療育相談員、臨床心理士、  
言語聴覚士、教師、学生

計16名



## アンケートについて ( 回収 32 / 41 )

### 1、今回のワークショップは何で知りましたか？

ホームページ	:	21
ちらし	:	2
紹介	:	8 (どなたの：家族、友人、職場)
その他	:	0
無回答	:	1

### 2、ペアレントトレーニングの学習について参考になりましたか？

はい	:	32
どちらともいえない	:	0
いいえ	:	0

- ・ PDD は教えないとできないこと。現状把握が大切だが難しいこと。
- ・ 4つの領域(いいところ etc)を書くことで、支援者として気づくべき課題が見えてきた。
- ・ まず取り組まなければならない事柄を理解させていただきました。
- ・ 親御さんが取り組むべきは現状把握が中心であると確認できたことなど。
- ・ 障害の捉え方、現状把握の仕方がよくわかりました。
- ・ 具体的に、という点が理解しやすかった。
- ・ 家族の話を含めて考え方全般。
- ・ ADHD との違いがわかった。
- ・ 現状把握の大切さを実感しました。
- ・ これからの子供との接し方。
- ・ 困っていることでも、その領域全体で考えるといいところもあることがわかりやすく分析できた点。
- ・ 現状把握の仕方...日常の中からどのような事実を見つけ、言葉にして記録し、自分の認識として積み上げていくか。その方法をわかりやすく教えていただきました。
- ・ 親シート・子シートの活用による問題・現状把握がよかった。
- ・ コーチングの内容と重なる面があり、また自分なりに考えようと思いました。
- ・ 現状把握シートの記入、活用法が具体的にわかった。親への支援の仕方がわかった。
- ・ 現状把握について理解が深まりました。
- ・ ペアレントトレーニングでできること、できないことなどを知ることができました。
- ・ ほめることがまず日本の習慣にない。しかし、日本の教育方針では発達障害の子どもたちはあっていないということがよくわかった。それをまずスタートラインとして認識したうえで、始めるということが大切ということがわかった。
- ・ 基本的な考え方がわかった

### 3、ワークブックは使いやすかったですか？

はい : 20

- ・具体的な記入例もあり、説明自体も簡単な言葉が使われていたためわかりやすかったです。
- ・結び付け方
- ・表になっているのがいいですね。とてもわかりやすいです。
- ・カラー刷りで見やすくイラストも親しみやすく、深刻になりがちな問題をサラリと明るく考える方向に持っていくことに役立つと思います。
- ・現状把握シートを書くと、自分と子供のことがわかり、とても参考になりました。
- ・初級、中級では、子どもに合った子育ての表現がお風呂のみではなく、いろいろなパターンがあるとよいのでは。
- ・手軽に読める。
- ・どのような観点でかきこんでいけばよいのかということがわかりやすく提示されていた。
- ・3つの段階に分かれているので、まず、どの段階かということをあわせて使えるので、よいと思った。
- ・見やすい。

どちらともいえない : 12

- ・実際に使ってみてまたフィードバックしたいと思います。
- ・メモをするページがあったらよかった。
- ・どちらともいえないにしましたが、現状把握シートは支援の側からも応用して使えることができるのではないかと思いました。
- ・わかりにくい部分も・・・。
- ・P1の発達障害の説明が。

いいえ : 0

**4、ワークブックの改善点として、もう少し、こういう点を入れて欲しいというような点があれば教えて下さい。**

- ・具体的な行動を書き込むために事例がもっとたくさんあるとよい。本人の行動課題を見つけていくところを詳しく教えてもらえたらと思いました。
- ・紙質・・・もう少し書きやすい紙、何枚か書くことのできる用紙。
- ・3冊になっている点あまり理解できない。
- ・3冊の関連性（前書きみたいなもの）がわかるよう図式化されたものがあるとよい。
- ・その後取り組む課題などへのアプローチ法の例などをいれてほしい。
- ・初級編では現状把握シートが「困ったところ」が左端であるのに対して、中級編では右端になっていたため、統一した方がより使いやすいかと思います。
- ・講座でも触れられていましたが、一覧表の検討のとき、どちらから行うのか。なれないと迷いますね。初・初2・中級と順番が違ったのはなぜでしょう。
- ・いいところ～困ったところが反対の方がいいと思いました。
- ・現状把握シートの項目立てを統一していただけると・・・。
- ・シートは左から「いいこと」にしてほしい。
- ・まだ十分に使い込んではいないので、現時点での改善点は特に見当たりません。
- ・現状把握シートの「子どもさんに確認しながら書きましょう」の意味がよくわかりませんでした。
- ・1～2ページ目の字が小さい。もう少しページを割いてもいいのではないか。導入部分として大事なところと思う。
- ・はじめて取り組まれる方には、現状把握シートのスペースが広すぎる気がします。たくさん書かなければと思ってしまうのでは・・・。

## 5 . 支援者の方のみ

今後もワークブックを活用していきたいと考えていますか？

は い : 20

- ・辻井先生のバツサリ・ハッキリの言い方にスッキリしました。
- ・実際に継続的に書いて、子供の変化をみたい。
- ・基本の流れ・型としてあると話が伝わりやすいかと。
- ・保護者の勉強会。
- ・保護者へのスモールステップの作り方、考え方について。
- ・もう1度読み返してみる必要を感じた。
- ・現状認識の確認のしかたを広めたいです。たとえ参考意見としてでも。我流でやっている人もいるのでは？ そういう人に限って、“自分はよく勉強している”“私の言うとおりにしておけばいいのだ”と周りを威圧して、間違ったやり方をさせようとしませう。研修会がそうになってしまうと、もう、たいへんです。若い先生は“ああいうのが、強い教師なのだ”と勘違いしてまねしようとしませう。そんなことに少しでもブレーキをかけたいです。(ちなみに、現在ウチではそのような人はもういません。)
- ・顧問医として、また主治医として、授産所において、父兄・指導員の双方から、利用者さんの相談を受けることがあります。そのような場合、双方の認識・問題点・目標設定にズレがあることが多く、その調整に時間ばかり掛かっていました。このワークブックの活用で問題把握・目標設定を短時間で言うことが出来ており、大変重宝しております。
- ・自分でできるように勉強して、ペアトレを育児に困難さを感じているお母さん方の支援をしたいです。発達障害の有無に関わらず。
- ・ケース検討のような形を通して具体的な対応策やスキルのブラッシュアップ的なこと。
- ・実際の相談場で活用したい。また行政計画を立てる際に今日の講義を参考にしたい。
- ・学校教師や親の方への説明と支援のために活用したいです。
- ・自己理解をすすめるワークとして活用できそう。
- ・今後施設でペアレントトレーニングを実施していくかはわかりませんが、文字にしてまとめることで視覚的にも行動特性を捉えることができるので、保護者の方が子供を理解するうえで、役立つように思いました。
- ・センターに相談に来る方に、子供に対する姿勢という形で考えてもらうときに参考にさせていただきたいです。
- ・当面は個々の面接の中で、できればグループ、理想的には県内5圏域の保健所や各市町村保健センターでグループができたらい。
- ・保護者や先生方に活用していきたい。

どちらともいえない： 3

- ・親への支援の際に pick up したいと思います。

いいえ： 0

無回答： 9

#### 6、その他、ご感想をお書きください。

- ・とても良い機会をいただきました。感謝です。
- ・私自身、一昨年前まで産婦人科医として働いており、精神科医師としてはまだまだ未熟者であると自覚致しております。しかし産婦人科医のキャリアが、父母・家族への支援という立場に置かれた際には、従来の精神科医とは違った視点から捉えることが出来るのではないかと思えるようになりました。これも今回のワークショップのお蔭と感謝致しております。今後も自立支援について精進したいと考えます。有難う御座いました。
- ・やりとりシートは実例をもう少し詳しい説明が必要だと思いました。
- ・来年、東京で講座があったらぜひ参加したいと思いました。そして、今日感じたこと、できているところを継続していきます。
- ・とても充実したセミナーを受けることができ感謝しています。ブログチームのように全国行脚をしてくださるとうれしいのですが・・・
- ・親子の実践の場に立ち会いさらに理解を深めたいと思います。
- ・とても勉強になりました。ありがとうございました。
- ・なかなか学べる機会がないので、とても参考になりました。

## 終わりに

今回の事業を通して、ペアレントトレーニングのワークブックを初めて作成することができました。これまでのペアレントトレーニングを更に取り組みやすく行うことが可能になりました。

発達障害のお子さんを持つ親御さんだけでなく、多くの現場の第一線で活躍されてみえる専門家の方々にも多く参加いただきました。ただ、ワークショップで実際に専門家とやりとりをしながら進めるため、参加人数に制限をさせていただいたため、申込みを締め切った後でも申込みがあり、お断りをする事になってしまいました。

このように、親御さんでもまた支援者でもニーズとしては高いものだと思います。

今後の発達障害支援の親御さんを対象とした支援で、今回のワークブックをさまざまな現場で活用していただけることを期待します。

ただ、このペアレントトレーニングでは、その子の実際困っていることへの助言などを専門家が行っていくものではなく、むしろ親御さん自身が自分のお子さんをどのように捉えて前向き向き合い楽しく子育てができるかということに重点を置いております。今後ペアレントトレーニングをしていく際にはこの点は把握していただきたいと思います。

しかし実際の取り組みの中では、子どもの現状把握や課題の設定をする中でも、「自然にできるようになる」という期待を捨てきれない親御さんも何人かみえ、そうした中で、このペアレントトレーニングは、一度受ければよいというわけではなく、定期的にトレーニングを積み重ね、必要な人には何度も繰り返しトレーニングをしていく必要があるのだろうと思います。

専門家とのやりとりだけでなく、親御さんのグループも形成され、そのグループ内で意見交換をしたり、若い親御さんのよき先輩としての役割を担っていただけたりできるようになればと思います。

特定非営利活動法人 アスペ・エルデの会 事務局  
〒452-0821 名古屋市西区上小田井二丁目 187 番地  
グランドホム-小田井 201 号室

<http://www.as-japan.jp>

